

青井地区の『復興まちづくりへの想い』について ～第1回懇談会の意見概要～

※ 第1回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目	復興まちづくりへの思いや困り事等について
避難対策	避難場所 道路 ・避難場所を町内会館にしていたが、天井まで水が来た。 ・土地が低く2階の天井まで水が来たため向かいのホテルに避難した。 ・周りの建物の3、4階に避難した。 ・20～30分程度で行ける車の避難場所が必要である。 ・アンダーパスが浸水したことによって、避難路がなくなった。 ・道路が狭いため、自動車で避難する人が集中して渋滞していた。 ・逃げるための道路を整理しておく必要がある。 避難誘導 要支援者対策 ・今回は水の出が早かった。危なくなくても早めに逃げるのが重要。 ・雨音で無線が聞こえなかった。女性の声の方が良い。 ・球磨村の浸水状況等を人吉市にも流した方が良い。 ・時間別に対策を考えることが必要である。 ・高齢者はまず下青井会館に集まり、そこから車で球磨工業高校へ避難するようにしていた。 ・避難を拒否する人をどのように避難させるのが良いのか。 ・要支援者対策は、若者を巻き込むことが必要。 ・避難のためのマニュアルが必要。
生業再建・住まい再建	住まい再建 生業再建 復興まちづくり ・公費解体して建て直しを検討しているが、水害対策で高床式にしたいのに以前あった建物仕様でないといけないと言われて困惑。 ・1階が商店、2階が自宅で、再建後構造変更しようとしたら公費解体の対象外となった。 ・国道445号の拡幅計画がどうなっているのか。早く示してほしい。 ・自宅は道路拡幅にかかっている。どんな建物なら建築可能か。 ・高上げするのであれば、どれぐらい上げればよいのか。早く方向付けしてほしい。 ・上青井は西校区で唯一の商店がある地域。再建が厳しい。 ・（後継者問題も含めて）商店街の集約化で考えられないか。なりわい補助金も活用。 ・以前の魅力以上にしないと観光客は帰ってこない。青井地区は“観光”が第一では。 ・青井地区（神社）を復興させること。 ・青井阿蘇神社と駅の間、門前町として整備、街灯で街を明るく、球磨川遊歩道までもつ。観光客が夜でも回遊できるように。駅や神社からの観光客の回遊性。 ・「人吉旅館」は文化財登録。ちゃんと後世まで守っていききたい。 ・城址周辺を（大分県日田市）豆田地区みたいな雰囲気になりたい。高い建物はなるべく控えてもらい、古い街並みをつくりたい。 ・JR肥薩線の早期復旧が大切ではないか。 地域コミュニティ 地区への思い ・町内活動の拠点である町内会館を早く復旧したい。 ・長年住み慣れた土地だ。家を建て直して帰ってきたい。皆と一緒に住みたい。 ・『水害』とは切り離すことはできない。念頭に置いて住むしかない。 ・世帯数の減少により、町内会の運営が懸念される。 治水・その他 ・普段は何も流れていない溝から水が溢れてきた。いつもと違った。 ・山田川から水があふれるとは思わなかった。水の出方が早く、国道が川になった。 ・川とは共存関係。 ・東北の防潮堤のように高くはいらない。いいとは限らない。高くなると街の魅力がなくなる。

◇お問い合わせ◇

人吉市役所 復興局 復興支援課
〒868-8601 熊本県人吉市下城本町 1578-1
Tel:0966-22-2111(内線:8893) Fax:0966-24-7869
E-mail:fukkousien@hitoyoshi.kumamoto.jp

これらに関する情報は、市ホームページにも掲載しています。ホームページをご覧になれない人はお問い合わせください。

地区別懇談会だより Vol.1 青井地区

～みんなで取り組む、人吉市の復興まちづくり～

『地区別懇談会（第1回・第2回）』を開催しました

甚大な被害や治水対策による影響が大きいなど、地区でまとまって問題解決に取り組む必要性の高い地区を「重点地区」として位置づけ、それぞれの地区ごとに「地区別懇談会」で話し合いを進めています。
青井地区の**対象地区は、上青井町、中青井町、下青井町、駒井田町、城本町**です。

◆第1回地区別懇談会

- 復興計画、復興まちづくり計画についての説明**
 - ・復興計画等の概要説明
 - ・重点地区の考え方と地区別懇談会の進め方
 - ・これまでの校区别座談会の概要
- 地区ごとの話し合いと全体共有**
 - ・顔合わせ、自己紹介（想いや困り事など）
 - ・次回日程や宿題、連絡体制や参加者の声かけ



4月17日（土）14時から、東西コミュニケーションセンター

◆第2回地区別懇談会

- 地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明**
 - ・前回懇談会の振り返りと情報提供
 - ・治水対策とまちづくり・避難の考え方
 - ・復興まちづくりに係る各種支援制度や事例の紹介
- 地区ごとの話し合いと全体共有**
 - ・出水期に向けた避難等のあり方
 - ・復興まちづくりへの具体的な課題と方向性
 - ・今後の進め方、次回日程調整、連絡体制の確認



5月12日（水）10時から、東西コミュニケーションセンター

懇談会の進め方について ～復興まちづくり計画の策定に向けて～

地区別懇談会での検討をもとに、具体的な復興まちづくりの取組を「復興まちづくり計画」に反映していきます。

◆地区別懇談会の参加方法

- ・対象地区にお住まいの方や勤務されている方など、どなたでも参加できます。
- ※可能な範囲で、継続的な話し合いに参加いただけます。
- ・参加申込は随時受け付けておりますので、本紙面末尾の**復興支援課までお問合せください。**
多くの方のご参加をお待ちしております。

◆地区別懇談会の進め方

- ・4～10月までの間に、概ね月1回（合計8回程度）の開催を予定しています。

次回の開催予定：**第3回 6月17日（木）18時30分より**

次回のテーマ予定：復興まちづくりの課題と方向性について

会場：東西コミュニケーションセンター

参加
募集中



◇復興まちづくり計画とは

- ・復興計画を実現するために取り組むべき内容を検討・整理したものです。
- ・特に被害の大きい特定地域（重点地区）などを対象に、各地域の具体的な計画づくりを行います。
- ・**住民主役の計画づくり（策定主体は主に住民）に対して、行政が支援し、計画策定をめざします。**
- ・計画期間は、令和4～9年度の概ね6年間。（令和3年度からの一部実施も想定）

※ 第2回地区別懇談会における参加者の意見であり、決まった内容や事実確認をした内容ではありません。

項 目		出水期に向けた避難等のあり方 復興まちづくりへの具体的な課題や方向性について
避難等のあり方	避難場所	・修成館を一次避難所として利用しているが、町内への周知徹底が必要。 ・駒井田町公民館は浸水したため、解体・建替え予定。 ・町内には高い建物が少ない。行政が高いビルを借上げ、避難所として活用するなどの対応を条例化するなどしてほしい（高い建物:香花堂、愛甲病院、辻病院、モナパレスなど）。 ・対価有りで良いので、非常時にはビジネスホテルを開放してほしい。 ・この地区は高台まで行くのが現実的に困難なため、高い建物への垂直避難が望ましい。 ・マンションと災害協定を結び、避難所利用できるようにする。 ・駅前の立体駐車場は、日中は利用車でいっぱいのため避難所活用しにくい。 ・球磨工業高校へ避難するのが安全。 ・避難場所に活用できそうな公園はない。 ・早い段階の避難であれば、校区外（北泉田方面）へ避難しても良いのではないか。 ・五十鈴橋は通行するのに危なかったため、鶴田橋を通るのが良いのでは。
	避難ルート	・人吉西小学校へ避難するルートは川・線路・崖に囲まれ、問題が多い。 - ルート①：御溝川沿いのルートであるが、今次水害では渋滞や浸水もあった。 - ルート②：アンダーパスが冠水しやすく危険である。旧道を使えるようにできないか。 - ルート③：城本第4踏切（人吉駅西側）は徒歩・自転車のみ通行可能であるが、避難時だけでも自動車が通れると助かる。 - ルート④：人吉駅跨線橋（自由通路）は、駅北側の大村横穴群周辺ががけ崩れの危険性がある。 - ルート⑤：マルシヨク方面のルートは遠回りになり、土砂災害の危険性がある。 - ルート⑥：人吉西小への最短ルートであるが、急坂でお年寄には向かない。また、崖沿いで土砂災害の危険性がある。 ・皆が一斉に自動車で避難したら、道路が渋滞し逃げられないと思う。国道 445 号の改良、拡幅を望む。 ・球磨川の橋を渡って左岸へ逃げるのは危険。 ・人吉駅を高層にして、高台の方へブリッジを架けられないか。豪雨時のがけ崩れが心配。
	避難誘導 要支援者対策	・早めの避難が大事で一番の策である。いち早い段階の避難を心掛けるしかない。 ・線状降水帯の情報も含め、避難のための情報をいち早くほしい。 ・日中に発災すれば、家族はバラバラで避難することになる。また、夜中であればさらに行動ができずに大変だろう。 ・下青井の犠牲者 3 名のうち 2 名が移住者であった。過去の経験が生かされていない。 ・一人暮らしの高齢者は自動車を所有しておらず、避難できない。 ・町内の 90%が浸水被災したため、誰が誰を助けるなど通用しない。 ・民生委員も被災し身動きが取れず、支援活動ができなかった。 ・想定していた避難行動ができなかった。 ・町内会や民生委員による逃げ遅れの確認はしているが、徹底は難しい。 ・普段から避難時に必要なものを家庭内で準備しておく必要がある。
復興まちづくりへの課題や方向性	治水 土砂対策	・山田川からの流水について、どのような対策ができるか。
	その他	・学校やPTAと協力し、子どもたちも一緒に避難訓練に参加することが自然なまちにしていきたい。→祭りや地域行事の機会と結びつけるのも一案。

